

SEISHUN! 献血



未来を育む
あなたの献血



岩国市立岩国中学校

3年

江田 こうた

芽亜里 めあり

さんの作品

山口県健康福祉部薬務課
日本赤十字社山口県支部
山口県赤十字血液センター



「若者の皆さんの献血へのご理解とご協力が必要です。」

献血は、病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんのために、健康な人が無償で血液を提供する身近なボランティアです。

輸血に使われる血液は、現在の科学技術でも未だ人工的に造ることができず、長期保存することもできないため、全て日々の献血により賄われています。

そのため、全国では毎日約14,000人、山口県では約150人の献血協力が必要とされ、献血で得られた血液は、多くの命を救っています。

こうした中、昨年度、県では約48,000人の方々に献血にご協力いただき、医療に必要な血液を確保しているものの、少子化の影響により献血可能人口が減少していることに加え、これからを支える10代～30代の献血者数は、この10年で約7,000人も減っており、このままでは近い将来、血液を必要とする患者さんに、血液を届けることができなくなるおそれがあります。

そこで、県では、「周りの人たちの献血行動に良い影響を与える高校生」を「**献血インフルエンサー**」と命名し、献血につながる一歩を後押しする取組など、若年層の献血者確保に努めています。

皆さんには、身近な社会貢献として、ぜひ献血にご協力いただくとともに、体質等の理由から献血ができなかったとしても、献血の大切さについて友人や家族と一緒に考えることで、献血の輪を広げていただきたいと思います。

献血は、「命をつなぐボランティア」です。

一人一人の行動が、血液を必要とする患者さんの命につながります。

皆さんの温かいご協力をお願いします。



日本赤十字社 山口県支部長
村岡 嗣政 (山口県知事)

INDEX

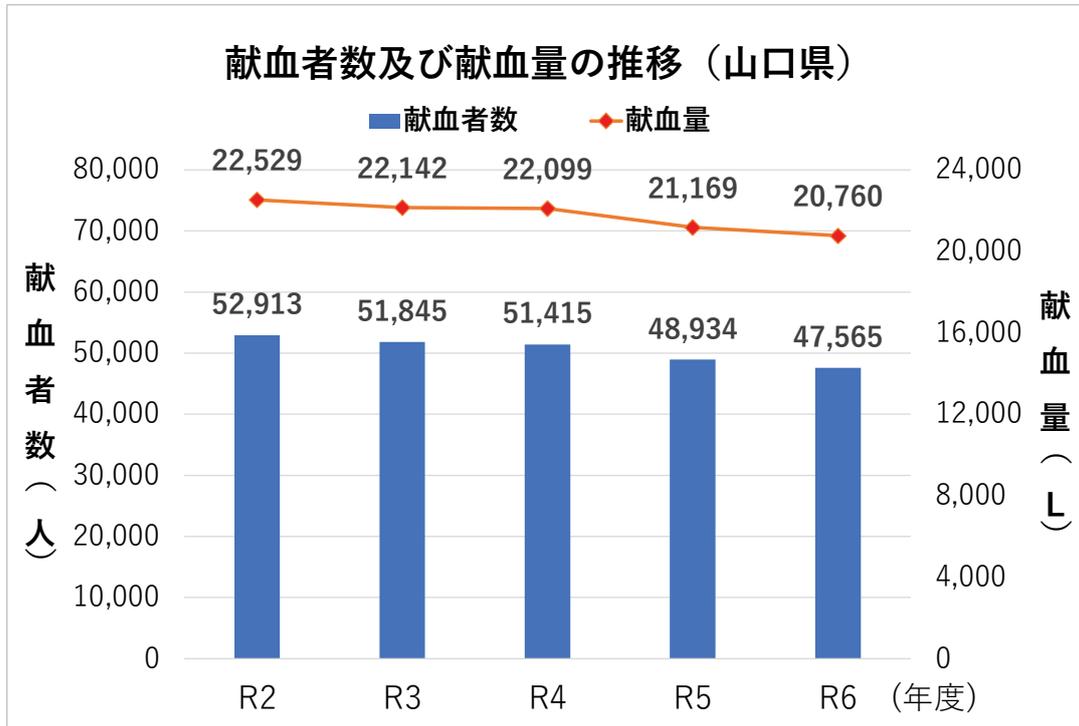


山口県の献血状況	1
献血のことQ&A	2～3
高校生献血推進ボランティア事業	4～8
献血インフルエンサー	9～10
令和7年度献血推進ポスター・作文入選作品	11～18
日本赤十字社山口県支部からのお知らせ	19～20
山口県赤十字血液センターからのお知らせ	21
献血ができる場所	裏面

山口県の献血状況

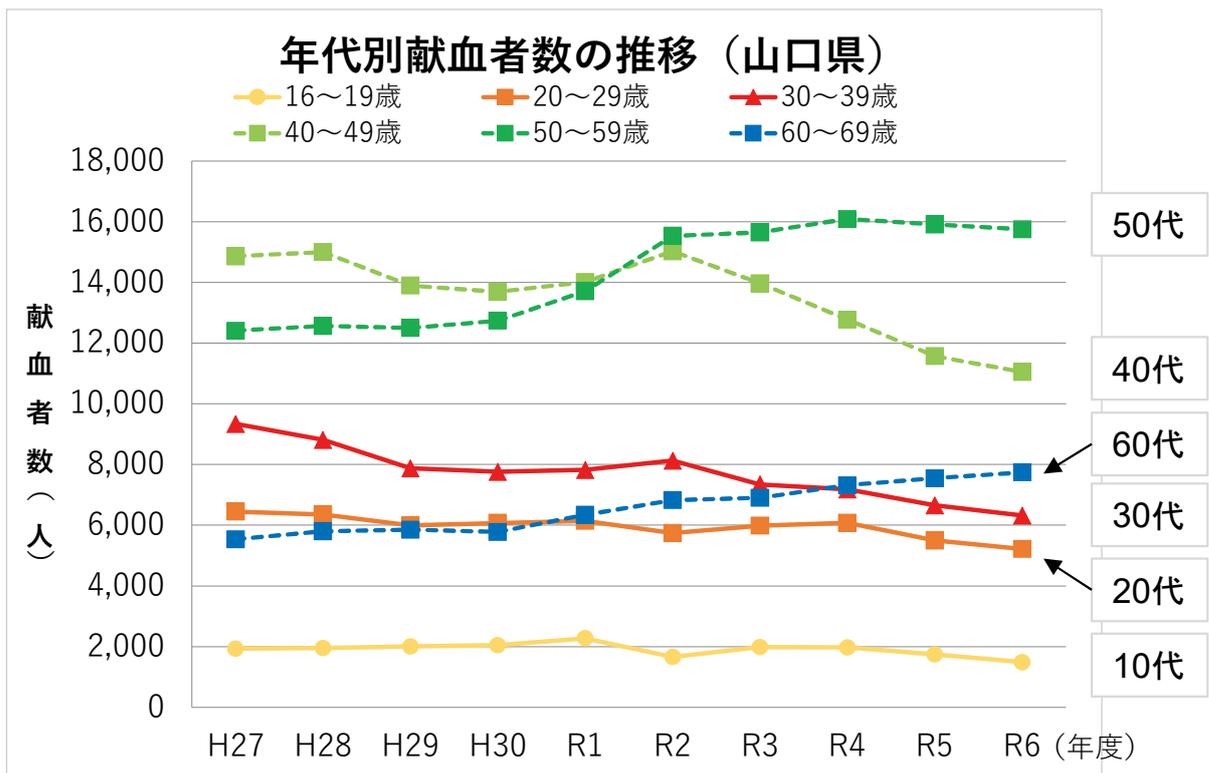
献血者数・献血量の推移

山口県の献血者数は年間5万人前後で推移しています。



年代別献血者数の推移

近年、少子化の進行により、献血可能年齢（16歳～69歳）の人口が年々減少しており、特に、20～40代の献血者数は大幅に減少しています。今後もこの状況が続くと、将来、輸血用血液の安定的な供給に懸念が生じます。



献血のことQ&A



なぜ献血が必要なの？



献血は、病気の治療や手術などで血液を必要としている人へ、自ら進んで血液を提供することです。

血液は人工的に造ることができず、長期保存することもできないため、輸血に必要な血液を十分に確保するために、継続的に多くの方からの献血への協力が必要です。



献血は何歳からできるの？

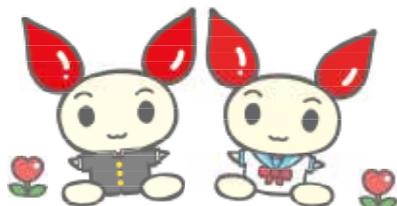


200mL献血は16歳から、400mL献血は男性は17歳、女性は18歳からできます。

※年齢や体重のほか、血圧、血色素量、献血間隔など、採血基準に適合した人ができます。

		200mL 献血	400mL 献血	血小板 成分献血	血漿 成分献血
年齢	男性	16歳～69歳※	17歳～69歳※	18歳～69歳※	18歳～69歳※
	女性		18歳～69歳※	18歳～54歳	
体重	男性	45kg以上	50kg以上	45kg以上	
	女性	40kg以上		40kg以上	

※65歳～69歳までの方は、60歳～64歳までに献血経験がある方に限ります。



詳しい
献血基準は
こちらから



献血はどこでできるの？



献血は、全国の献血ルームまたは献血バスで実施しています。

県内の献血ができる場所については、裏表紙をご覧ください。





献血には、どれくらい時間がかかるの？

採血は
全血献血で
15分程度
だっち！

400mL献血で、採血時間は15分程度です。
問診や検査の時間も合わせると約40分です。



「ラブラッド」って知っている？

「ラブラッド」は、日本赤十字社と献血者をつなぐ、Web会員サービスです。
アプリを登録して会員になると、次のメリットがあります。

なお、献血可能年齢未満の方でも、「プレ会員」として登録できます。

会員になると...

- 献血の予約ができます
- 問診の回答が事前にできます
- 過去の検査結果等を含む献血記録が確認できます
- ポイントを貯めて記念品と交換できます

プレ会員とは...

- 献血に関するクイズに答えたり、コンテンツを閲覧できます
- 献血可能年齢に到達すると初回献血の予約ができます



ラブラッドアプリのダウンロードはこちらから



高校生献血推進ボランティア事業

今、献血の一番大きな問題は、献血に協力してくれる若い人たちが減っていることです。

未来の献血を支える高校生に、そしてより多くの人に、献血のことを知ってもらい、参加してもらうために、高校生ボランティアが文化祭等の行事を活用して、献血に関する啓発活動を行いました。

また、校内献血に理解が得られた学校では、献血も行いました。

開催時期

令和7年4月～令和8年3月

※各学校の文化祭や地域イベントに併せて実施

参加校名

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 👉 高水高等学校 | 👉 山口県立山口南総合支援学校 |
| 👉 山口県立岩国工業高等学校 | 👉 山口中村学園高等学校 |
| 👉 山口県立高森高等学校 | 👉 慶進高等学校 |
| 山口県立岩国商業高等学校 | 👉 山口県立宇部商業高等学校 |
| 山口県立熊毛南高等学校 | 👉 宇部フロンティア大学附属香川高等学校 |
| 👉 山口県立柳井商工高等学校 | 👉 山口県立宇部工業高等学校 |
| 👉 柳井学園高等学校 | 👉 山口県立小野田工業高等学校 |
| 👉 山口県立田布施農工高等学校 | 👉 山口県立美祢青嶺高等学校 |
| 👉 山口県立周防大島高等学校安下庄校舎 | 👉 サビエル高等学校 |
| 👉 山口県立周防大島高等学校久賀校舎 | 👉 山口県立小野田高等学校 |
| 👉 山口県立華陵高等学校 | 👉 山口県立厚狭高等学校 |
| 👉 山口県立下松工業高等学校 | 山口県立厚狭明進高等学校 |
| 山口県立徳山商工高等学校 | 👉 山口県立宇部西高等学校 |
| 山口県立光高等学校 | 山口県立大津緑洋高等学校大津校舎 |
| 👉 山口県立南陽工業高等学校 | 山口県立大津緑洋高等学校日置校舎 |
| 👉 山口県立防府高等学校 | 👉 長門高等学校 |
| 👉 野田学園高等学校 | 山口県立萩高等学校 |
| 山口県鴻城高等学校 | 山口県立萩商工高等学校 |
| 👉 高川学園高等学校 | 萩光塩学院高等学校 |
| 山口県立西京高等学校 | 山口県立下関中等教育学校 |
| 山口県立山口中央高等学校 | 👉 下関国際高等学校 |
| 👉 山口県立防府西高等学校 | 👉 早鞆高等学校 |
| 👉 山口県立山口高等学校 | 山口県立豊浦高等学校 |
| 山口県立山口松風館高等学校 | 👉 下関市立下関商業高等学校 |
| 山口県立山口農業高等学校 | |

👉 は献血セミナー実施校、👉 は校内献血実施校
(令和7年12月末時点 決定分)

実施内容

- 献血セミナー受講
- 献血啓発パネル・ポスターの展示
- 献血啓発DVDの上映
- 献血クイズの実施
- 献血啓発ティッシュ等の配布
- 校内献血の実施



高校生献血推進ボランティア！活動の様子

4月

4月10日(木)
山口県立宇部西高等学校

献血セミナーを実施した。献血は命を救うことができるボランティアであり、参加してみたいと思った。



5月

5月26日(月)、7月18日(金)
山口県立田布施農工高等学校

献血セミナー、校内献血を実施した。献血を行うことで、たくさんの病気の方が助かることを知り、自分も献血に参加し、多くの命を助けたいと思った。



6月

6月6日(金)
山口県立下関中等教育学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。もっと献血について知りたいと思ったし、将来、献血をして人の役に立ちたいと思った。



6月6日(金)、7日(土)
山口県立萩高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。献血の大切さを知り、皆にも知ってもらえて良かった。



6月7日(土)
山口県立厚狭・厚狭明進高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。献血者希望者が若者を中心に大きく減少している現状を伝えることができた。



6月7日(土)
山口県立豊浦高等学校

献血バスの見学、献血について看護師に説明してもらえるコーナーを設置した。献血について理解が深まった。



6月14日(土)
サビエル高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。たくさん人が献血に関心を持って参加してくれるとよいと思う。



6月15日(日)
慶進高等学校

啓発資材の配布を実施した。ティッシュペーパーを配りながら、献血について訴えることで献血についての認識が深まった。



6月

6月17日(火)
山口県立柳井商工高等学校

献血セミナーを実施した。血液は長期保存することも人工的に作ることができないことが分かり、献血の重要性が分かった。



**6月23日(月)、7月16日(水)、
12月23日(火) 柳井学園高等学校**

献血セミナー、校内献血を実施した。講演を聞き、自分が献血することで少しでも誰かの命を助けているのなら、これからは進んで献血したいと思った。



7月

6月28日(土)
萩光塩学院高等学校

啓発パネル・写真の展示、啓発資材の配布を実施した。献血は多くの人の命を助ける力になると感じ、献血の大切さを知ることができた。



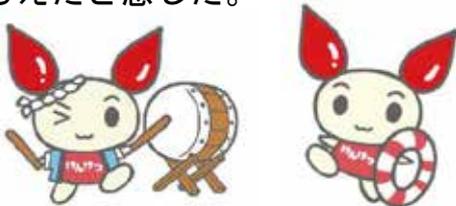
7月3日(木)
山口県立岩国商業高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。献血は必要なことだと思った。将来機会があればやってみたい。



7月6日(日)
高川学園高等学校

啓発資材の配布を実施した。啓発資材を手渡しすることで、献血に関心をもってもらえたと感じた。



7月17日(木)
山口県立防府西高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。来年は献血クイズも来場者に出してみたい。



8月

8月3日(日)
山口県立德山商工高等学校

「愛の献血助け合い運動」に参加し、啓発資材を配布しながら献血への協力を呼び掛けた。献血ができる条件や受付から献血終了までの流れについて説明を受け、献血への理解を深めた。



8月30日(土)
山口県立西京高等学校

啓発パネルの展示、啓発動画の上映、啓発資材の配布等を実施した。献血に関するクイズを作成するために資料を読むことで、まず自分たちが重要性を知り、しなければと感じた。



8月

8月30日(土)
山口県立山口中央高等学校

啓発パネルの展示、啓発動画の上映、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。

現状を伝えて、若い人たちにもっと関心を持ってもらい、献血に協力する人が少しでも増えればいいなと思う。



8月30日(土)、31日(日)
山口県立熊毛南高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズ等を実施した。今後は自分自身も献血に参加したいと思った。



9月

9月5日(金)、6日(土)
山口県立光高等学校

啓発資材の配布、啓発パネル・ポスターの展示を実施した。若者へ献血を進める取り組みは非常に大切だと感じた。



9月6日(土)
山口県立山口高等学校

校内献血、啓発パネルの展示等を実施した。バザーには多くの人々が訪れたので、展示されたパネルを見てくれた人も多いと思う。



9月6日(土)
山口県立大津緑洋高等学校大津校舎

啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。献血という単語は知っているもそれ以上のことはあまり知る機会がなかったため、献血の必要性や、現状、流れなどいろいろ知ることができてよかった。



9月8日(月)、27日(土)
高水高等学校

献血セミナー、校内献血を実施した。献血の大切さを知ったのでやりたいと思った。



10月

10月3日(金)、4日(土)
山口県鴻城高等学校

啓発パネルの展示を実施し、文化祭来場者に協力を呼び掛けた。



10月31日(金)
山口県立山口松風館高等学校

献血パネルの展示、啓発資材の配布等を実施した。献血可能な対象者や献血を受けられる施設・機会について、パネルを参照しながら紹介することができた。



11月

11月1日(土)
山口県立山口南総合支援学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。毎年活動することが大切だと思った。



11月12日(水)
山口中村学園高等学校

山口県赤十字血液センターにて献血希望生徒が放課後に献血を行った。



11月15日(土)
山口県立山口農業高等学校

啓発パネルの展示、献血クイズ等を実施した。献血について詳しく知らなかったが、活動を通じてその大切さを理解することができた。



11月15日(土)
山口県立大津緑洋高等学校日置校舎

啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。自分の年齢でもできる献血があるため、やってみたいと思った。



11月20日(木)、21日(金)
山口県立岩国工業高等学校

校内献血を実施し、文化祭で保健委員が現状と今後の協力を呼びかけた。楽しく献血することができ、誰かの助けになるならいいなと思った。



11月22日(土)
長門高等学校

啓発パネルの展示、ポスターの作成、献血クイズ等を実施した。献血についてあまり知らなかったけど、これを機に自分も人を助けるための行動をしたいと思った。



11月23日(日)
山口県立南陽工業高等学校

啓発パネルの展示を実施した。献血の重要性がよくわかったので、機会があればやってみようと思った。



11月29日(土)
山口県立萩商工高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。献血に興味関心を持つ人が増え、献血を実際に行ってみようというきっかけになった。



献血インフルエンサー

県では、若年層の献血行動につながるきっかけづくりを目的に、「周りの人たちの献血行動に良い影響を与える高校生」を「**献血インフルエンサー**」と命名し、その増加と育成に取り組んでいます。



令和7年度の取り組み

1 高校生献血サマースクール

やまぐち献血ルームFor youにおいて、県内の高等学校等に通学する生徒を対象に、「**高校生献血サマースクール**」を8月19日に開催しました。本イベントでは、実際の設備を使用した模擬献血体験や普段立ち入ることのできない場所を含めた施設見学等を行いました。

参加した高校生からは、「献血ができるようになったら行きたいと思った。」という声がありました。

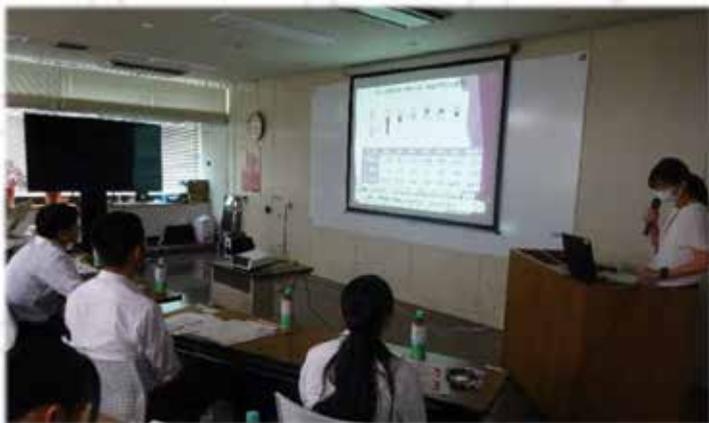
・ 模擬献血体験



・ 施設見学



・ 献血セミナー／献血ルームで働く職員との意見交換



高校生献血サマースクール参加校

山口県鴻城高等学校
山口県立厚狭高等学校

山口県立徳山高等学校



2 「高校生が考える献血者増加アイデア」の募集

10代～30代の若年層献血者の増加に向け、献血の現状と高校生自らが考える献血者増加アイデアをまとめた作品を1月末まで募集しました。

応募作品(一部抜粋)

- 2. 予約アプリにゲーム的要素を取り入れる
 - 予約を指針とした回数ポイントカードにする
 - 毎日の献血で何人の命を助けているか可視化する(その日救済された回数)を減らすと特典が貯まらなくなる
- 3. 実行りの芸能人とのコラボ
 - ライブ会場などに献血バスを配置し献血もしながら献血
 - コラボグッズを売る
 - 献血会場内に芸能人の献血の呼びかけを流す
- 4. 抽選会の実施
 - 抽選で抽選会参加券
 - 抽選・抽選会料・抽選チケットなどのペアチケットなど
 - 楽しいものを抽選で抽選的に抽選に抽選で抽選

献血を促進するためのアイデア

- ・各学校にポスターを配布
- ・献血のことを知らない若い世代の為に、学校の授業や、CMなどで知識を提供する
- ・献血をしたら特典があること(お菓子、飲み物など)を渡して気軽に友人などと参加できるように促す

現状・課題

- ・献血者の減少・高齢化
- ・若年層の献血率の低下
- ・献血についての知識不足(時間がかかるといけない)
- ・献血施設への入り口が
- ・献血への安全懸念性
- ・若年層への関心が低い

献血者増加アイデア

- 【課題】関心の低い一層若年層の増加
 - SNSを活用して「献血でポイントが貯まる」
 - SNSで「献血でポイントが貯まる」を拡散して、若年層への関心を高める
 - SNSで「献血でポイントが貯まる」を拡散して、若年層への関心を高める
- 【課題】献血のハードルを下げ、献血の機会を増やす
 - SNSを活用して「献血でポイントが貯まる」を拡散して、若年層への関心を高める
 - SNSを活用して「献血でポイントが貯まる」を拡散して、若年層への関心を高める
- 【課題】献血のハードルを下げ、献血の機会を増やす
 - SNSを活用して「献血でポイントが貯まる」を拡散して、若年層への関心を高める
 - SNSを活用して「献血でポイントが貯まる」を拡散して、若年層への関心を高める



献血インフルエンサーポータルサイト

献血インフルエンサーが活動しやすいように、献血に関する情報をまとめたポータルサイトを作成しています。

詳しくはこちら ⇒





岩国市立岩国中学校3年

ごうだ めあり
江田 芽亜里



下関市立長府中学校2年

とみた ふうか
富田 楓花



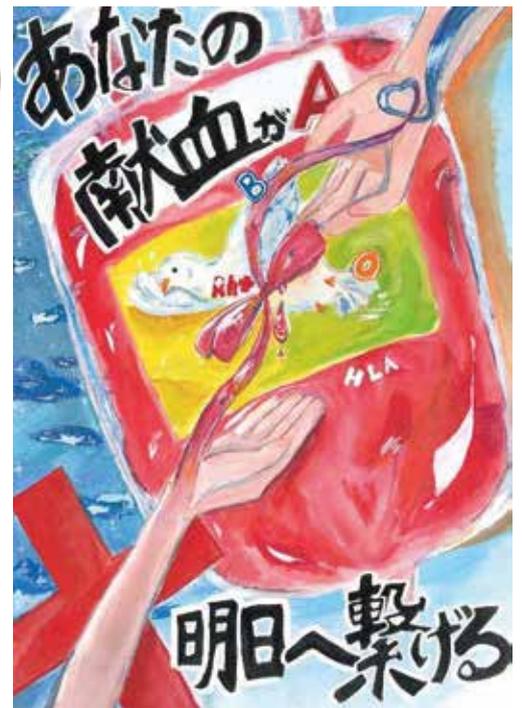
山口県立徳山高等学校2年

ひぐち ゆい
樋口 結巳



下松市立末武中学校2年

ひがし しいか
東 志依佳



防府市立牟礼中学校2年

なかむら いあん
中村 衣杏



萩光塩学院高等学校2年

むらた ほのか
村田 穂乃香



「私が献血を続ける理由」

柳井学園高等学校3年 ひぐち ひな
樋口 日菜

私は衛生看護科に通う高校三年生で、これまでに三度献血を経験しました。初めて献血に協力したのは、高校二年の冬でした。友人と一緒に献血ルームを訪れ、緊張しつつも「人の命を救う力になれるのなら」という思いで臨んだことを、今でもはっきり覚えています。

看護を学ぶ中で、輸血が医療現場で欠かせない処置の一つであることを知りました。事故や大きな手術だけでなく、白血病や再生不良性貧血などの病気と闘う患者さんにとっても、輸血は生きるために必要なものです。けれども、血液は人工的に作ることができず、一人ひとりの善意による献血に支えられています。その現実を学んだことが、私が献血を試みたいと思うきっかけとなりました。

一度目の献血は、知識として知っていたとはいえ、普段目にする注射針よりも幾分か太い針を実際に見て、恐怖と不安でいっぱいでした。しかし、スタッフの方が優しく声をかけてくださり、いつの間にかそんな事は忘れ、気付いた時には終わっていました。献血後、「あなたの血液は、必要としている患者さんのもとへ届けられます」と書かれたカードを受け取り、自分の行動が誰かの命につながるのだと実感し、胸が温かくなりました。

二度目、三度目の献血は、緊張や不安よりも「また協力したい」という前向きな気持ちが強くなっていました。特に三度目の献血の後には、スタッフの方から「続けて協力してくださることが、とてもありがたいです」と言葉をかけて頂き、社会の中で自分が果たせる役割の一つを見つけたような気持ちになりました。

献血を重ねる中で、私は「自分の体を知る」きっかけができました。事前の血液検査やバイタルサイン測定により、自分の血液状態、健康状態を確認できるため、普段の食生活や体調管理に対する意識も高まりました。健康でなければ献血はできません。つまり、献血は誰かを助けるだけでなく、自分自身の健康を見つめ直す機会にもなるのです。

また、医療を学ぶ立場として、献血の大切さを実感したことは、将来にも役立つ経験だと思っています。看護師を目指す私にとって、患者さんに安全で確実な輸血が行われている背景には、献血というボランティアの積み重ねがあることを理解するのは大切なことです。そして、患者さんやご家族に説明をする場面が来た時、「私自身も献血を続けています」と伝えられることは大きな自信につながるのではないかと感じます。

高校生として献血を経験し、同世代の協力が少ないことを感じました。少子高齢化により若い世代の献血の重要性が増す中、現実の重さを実感しました。初めは恐怖もありましたが、実際に体験すると、自分の少しの行動が確かに誰かの命の支えになっているのだと感じられ、継続にこそ意味があると知りました。

献血は誰でもできる身近な協力だという気付きを忘れず、今後も続けていきたいです。



「高校二年生の私が思うこと」

柳井学園高等学校2年 つばい 坪井 ももか 桃香

私は、献血は医療を支えるうえで欠かせない行為だと考えている。手術や事故、病気の治療では多くの場合、輸血が必要となる。しかし、血液は人工的に作ることができず、必要となきに必要な量を確保するには健康な人からの提供が欠かせない。特に近年は少子化の影響で、将来的に献血できる人口が減少すると予測されている。このことは、輸血を必要とする患者が増える一方で、血液の供給が追いつかなくなる可能性があるという深刻な問題を意味している。

私は現在、高校の衛生看護科で学んでいる。授業の中で、輸血は出血による命の危機を救うために欠かせない医療行為であり、適切な血液が確保できなければ、救える命も救えないということを学んだ。医療従事者を目指す者として、この現状をより多くの人に知ってもらうことが自分の役割の一つだと感じている。

高校では「レオクラブ」というボランティア活動を行う部活動に所属している。その活動の一つとして、地域のスーパーマーケットの前で献血の呼びかけを行ったことがある。赤い献血車が店先に停まり、私たちはティッシュやパンフレットを配りながら、「お時間がありましたら献血にご協力お願いします」と声をかけた。最初は通り過ぎる人が多く、反応がなくて少し落ち込むこともあった。しかし、中には立ち止まって「ちょうど時間があるから協力するよ」と笑顔で応じてくれる方や、「この前献血したばかりだから、また次回にするね」と声かけてくださる方もいた。そのやりとり一つ一つが、とても温かく、活動の大きな励みになった。

この経験を通して私は、献血は誰かの命を直接救うのではなく、提供する人の気持ちや行動そのものが社会の支えになることを実感した。また、看護科で学んだ知識と活動での経験が結びついたことで、献血が医療のために必要という事実だけでなく、人と人とを結ぶ温かい行為だという理解が深まった。

私は16歳で献血に参加できる年齢になった。今後は健康管理に気を付けながら、積極的に献血に協力していきたいと考えている。将来、看護の道に進んだとき、患者さんやその家族の不安や希望に寄り添えるような医療従事者になるためにも、今からできることを一つずつ積み重ねていきたい。

献血の重要性を深く考えることで、医療現場における輸血の不可欠な役割と少子化がもたらす献血者数の減少という重大な課題を改めて痛感した。献血は一人ひとりの善意が集まって成り立つものであり、その小さな行動が多くの命をつなぐ大きな力となる。今後も自らの活動を通じて献血の重要性を周囲に広め、未来の医療を支えることのできる人になりたいと思った。命のバトンを確実に次世代へ繋ぐことは、私たち全員の責任である。これからも一人ひとりが意識を高くもち、社会全体で支え合い献血の輪が広がるのが、今、一番重要で大切なことである。



「その一歩が、誰かのありがとうに」

柳井学園高等学校3年 むらかみ 村上 ひなり 白菜莉

もし、あなたのわずか200ミリリットルの血液が、誰かの「生きたい」という願いを叶えたとしたら。

私はこれまで、ショッピングモールなどで「献血のご協力をお願いします」と来店客に声をかけるボランティアに、何度も参加してきました。足を止めずに通り過ぎる人、興味をもって質問してくれる人。その反応の差から、献血がまだまだ「深く知られていない存在」であることを感じてきました。

先日、献血セミナーで急性リンパ性白血病を経験した方の体験談を聞きました。その方は、輸血のおかげで命をつなぐことができた娘さんのことを、涙ながらに語られていました。そしてSNSを通して「献血のおかげで娘が助かりました」と発信し、多くの人に献血の大切さを伝えていました。ボランティアを通して、私は保存期間が短い血液があるため毎日多くの献血が必要だと知っていました。しかし、この話を聞き、「この血液は確かに誰かの命に届いている」という現実を、初めて自分の心で理解できた気がしました。

日本赤十字社によると、現在、年間約500万人が献血に協力しています。しかし、10～30代の協力者は2014年度には約29万人いたものの、2024年度には約160万人にまで減少しています。一方で、輸血を必要とする人は年間で約100万人、一日では約3,000人にも上ります。この数字の裏側には、顔も名前も知らない、でも確かに生きている人々がいます。この現実を知ること、献血の意義をより強く感じるようになりました。

私は今年7月、学校で行われた卒業献血に申し込みました。血管を探すため両腕を差し出すと、看護師さんは真剣な眼差しで腕を見つめ、「内出血がある方はできないし、もう片方も血管が太くないといけないから今日は難しいかも」と告げられました。正直、その瞬間は胸がざわつきました。「協力したい」という気持ちだけでは、献血はできないのです。その後、献血車に移動し、複数の看護師さんが交代で血管を探してくれました。ようやく針が刺さったとき、思わずほっと息をつきました。その瞬間、私は「この血が誰かの中を流れるのか」と考え、胸の奥が温かくなるのを感じました。

献血は、ほんの少しの勇気と時間でできる、命をつなぐ行動です。友達と一緒にでも、一人でも構いません。迷っている時間があれば、その一歩を踏み出すことができます。自分の血が、誰かの明日を守ることにつながることは、きっと何にも代えがたい経験になります。若い私たちが動けば、その分だけ未来は救われます。あなたのその一歩が、見知らぬ誰かの「ありがとう」に変わる日が、きっと来ます。その時、救われるのは、もしかしたらあなた自身かもしれませぬ。

次は、あなたの番です。



「献血のこと、私たちの世代に広めたい」

山口大学教育学部附属山口中学校2年 あまかわ 天河 はやと 隼人

私が初めて献血に行ったのは、3歳の時に父の献血について行った時です。父は現在献血回数225回で、献血を始めたきっかけは大学2年生の時に旅館のアルバイト先の近くに献血ルームがあって、朝と夕方のアルバイトの空き時間に献血に行ったことがきっかけだそうです。周りの友達に献血のことについて聞いてみると「知らない」とか「知っているけど痛そう」とかいうことでした。私たちの世代で将来献血をしようと思う人は少なくなってしまうと思います。そこで、どうすれば私たちの世代で献血をする人を増やすことができるか考えてみました。

私は、小学6年の夏休みにやまぐち献血ルームであった「けんけつキッズスクール」に参加しました。そこで血液や献血などの話の後、問診を受けたり、実際に針は刺したりしませんが、ベッドに横になって看護師さんに腕を消毒してもらったりしました。また、献血ルームや血液の緊急輸送車両、献血バス、血液の保管場所などを見学しました。病気の治療や手術で血液を必要とする人が多くいますが、血液は人工的に作ることはできません。そこで輸血や血液製剤を作るために必要な血液は献血によって集められます。このスクールに参加して献血の必要性和理解を深めることができました。

私はスクールに参加するまでは献血について学校で学ぶ機会はありませんでした。そのため周囲の友達には誤った知識があるのだと思います。そこで私が考えたのが、献血の理解を深めるSNSによる動画の配信です。内容は輸血で命を救われた方のインタビューや世代の近い献血ボランティアに参加した高校生のインタビューです。実体験からなので直接献血に対する理解につながるし、心に響くと考えました。また、小中高で積極的に献血について学ぶ機会を増やすべきだと考えます。このままいくと本当に献血に協力する人がいなくなるのではと、とても心配です。輸血する血液が足りなくて救える命を救えなかったということが絶対にあってはなりません。

最後に、私は16歳になって献血ができるようになったら献血に行こうと考えています。そして、父の献血回数を追い越せるように頑張ります。少しの勇気が人の命を救うことができる献血が多くの人に理解され、将来も続いていくことを心から祈っています。



「献血で繋ぐ、私の思い」

柳井学園高等学校2年 上野 未来

私には、11歳年の離れた弟がいます。弟は母のお腹にいる時から心臓に穴があいていました。生まれてからもその穴はふさがらず、生後25日で広島の大きな病院で手術を受けることになりました。私はまだ小学生で、手術や病気のことをよく理解できませんでした。でも、両親の不安そうな顔や病院の雰囲気から、ただならぬことが起きていると感じていました。

弟は、小さな体で一生懸命に手術を受け、さらにはカテーテル治療もしました。細い管を足の裏の血管から入れると聞いて、とても痛そうでこわいと思いました。でも、弟はがんばって耐えました。私は、その強さに胸を打たれました。

弟の治療には、輸血も必要でした。後から母に聞き、献血で集められた血液が使われていると知りました。それまで私は、献血と聞いても「大人が街なかでしているもの」という程度のイメージしか当時はありませんでした。

しかし、弟の命を救うために必要なものだったと知ってから、献血は私にとって、とても身近で大切なものになりました。

もし血液が足りなかったら、弟の命はどうなっていたのかと考えると、とてもこわくなります。見知らぬ誰かが献血をしてくれたからこそ、弟は助かりました。弟が、今ここにいて笑って大きく成長しているのは、献血をしてくれた人たちのおかげです。私はそのことを思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は今、高校二年生になり献血ができる年齢になりました。進んで献血をして11歳年下の弟の命が救われたように、私の血がどこかで誰かの命をつなぐことができれば、これほど嬉しいことはありません。

弟は、今では元気に走り回り、保育園にも楽しく通っています。その姿を見るたびに、「あのとき助けてもらえて本当に良かった」と心から思います。弟を救ってくれたのは、医師や看護師のみなさん、そして献血をしてくれた多くの人たちのおかげだと思います。

これから私は、献血の大切さを周りの人たちにも伝えたいと思います。そして、自分から積極的に献血に参加し、自分の血液で少しでも多くの人を救えるようになりたいです。



「献血が繋ぐ誰かの命」

柳井学園高等学校2年 福田 悠月

私の兄は、3歳の時に病気になった。「川崎病」という病気だった。私はその時1歳だったため、その時の記憶はない。しかし、母が何度も兄が死にそうになったという話をするので、川崎病がとても怖いものであり、兄は大変な思いをしたのだということが分かった。

いつも元気だった兄は、ある日、40度に近い高熱を出した。心配した母は病院に連れて行き、川崎病の可能性を指摘され、すぐに入院することになった。川崎病の治療には「免疫グロブリン」という血液製剤を多量に投与する必要がある。免疫グロブリンは人の血液の中から、その成分を取り出し作られる薬であった。兄は1クルールの治療を行ったが、病気が再発した。もう一度免疫グロブリンの投与をすることになった。その後、兄は川崎病に勝つことが出来た。それは、3歳の兄の小さな体に、何人もの人の血液から取り出した血液製剤が入り、兄の体と共に戦ってくれたおかげだった。

兄が助かったのは全て、見ず知らずの誰かが自分の健康な血液を分けてくれたおかげである。献血は、その血液で多くの人を助けている尊い行為である。

献血した血液は、血小板製剤で4日間、赤血球製剤で28日間、全血製剤で21日間、血漿製剤で1年間と有効期限がある。献血を必要とする人はたくさんおり、いつ必要になるかわからない。安定した供給のためには、年間を通して多くの人が継続的に献血をする必要がある。

しかし、今日本は少子高齢化が問題となっている。これは、献血が出来る人数が減ってしまうということだ。献血には、年齢制限や内服をしている人は出来ないなどの制限があり献血が出来る人は限られてくる。私は今、内服治療を受けているため献血が出来ない。しかし、いつか内服治療が終了したら、献血に行きたいと思っている。私の兄を助けてもらったように、私もどこかの誰かを助けたいと思っている。

「献血に行く」という小さな勇気が、自分と見ず知らずの誰かを繋ぎ、誰かの命を助けることに繋がる。誰かの勇気が、私の兄や私たち家族の未来を守ってくれた。よくわからないからと目をそらさずに、今の現実を見てみよう。小さな勇気を出して、献血に行こう。明日はあなたが、誰かを助けるヒーローになるかもしれないのだから。



日本赤十字社は、世界 191 の国と地域にある赤十字社の 1 つで、日本赤十字社法という法律に基づき設置された認可法人です。東京に本社を置き、全国 47 都道府県に支部があります。赤十字の施設には、赤十字病院、血液センター、社会福祉施設などがあり、人々のいのちと健康を守るために事業を行っています。災害発災時の救護活動、世界のネットワークを活かした国際活動、皆さんのいのちと健康を守る救急法等の講習会及び防災・減災セミナーの開催など、赤十字活動は多岐にわたっています。また、これらの活動は、皆さまからのご寄付やボランティアの方々によって支えられています。

日本赤十字社山口県支部の主な活動

災害救護活動

災害が発生すると、医師・看護師などで編成された救護班（1 個班あたり医師・看護師ら 6 人）を派遣し、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動などを行います。

また、救援物資の配布や義援金の受付をし、被災者への支援を行います。



各種講習会



“いざという時”
命を守るための救急法や高齢者への介護技術を習得できる健康生活支援講習など、各種講習会の普及に取り組んでいます。

赤十字奉仕団活動



災害に備えた炊き出し訓練や地域の美化活動、社会福祉施設訪問など赤十字事業を支え、地域のニーズに応じた活動を行っています。

国際活動



紛争や自然災害等の緊急時における救護活動に加え、各国赤十字と連携し、地域に根差した取り組みを行っています。

青少年赤十字活動



全国の幼保・小・中・高の学校等の教育現場約 14,000 校、約 330 万人の子ども達が「気づき・考え・実行する」の態度目標のもとに活動しています。

赤十字活動に関するお問い合わせ

日本赤十字社山口県支部 TEL 083-922-0102

身近な仲間の赤十字活動

山口県内の200を超える青少年赤十字加盟校の生徒（メンバー）が各地域で様々な青少年赤十字活動を行っています。

リーダーシップ・トレーニング・センター



山口県内加盟校のメンバーが、共同生活の中で様々なプログラムを体験し、リーダーシップを養っています。

国際交流活動



世界の人びととの友好親善の精神を育成します。

防災教育



子どもたち自らが災害からいのちを守るよう楽しみながら学べる防災教育を展開しています。

加盟校募集中！！



山口県青年（学生）赤十字活動

山口県内の大学生・社会人のボランティアと一緒に活動する団体です。現在は山口大学と山口県立大学の学生赤十字奉仕団のメンバーが中心となり活動しています。もしかしたら、皆さんの先輩も活躍しているかも…!?

赤十字PR活動



赤十字が行っている活動を多くの方に知ってもらうための広報活動などを行っています。

街頭募金



国内外の災害や海外の紛争などで苦しんでいる人を救うため、学内や街頭で募金活動を行っています。

研修会の開催・受講



研修会のなかで赤十字や防災、国際人道法についての知識を深めたり、今後の活動について意見交換を行っています。

赤十字の活動を支える財源

日本赤十字社山口県支部の活動は、県民の皆さまからの寄付によって支えられています。

使命を果たし、1人でも多くの苦しんでいる人を救うため、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

協力方法の詳細は、ホームページの“寄付について”をご確認ください。



日本赤十字社の使命

わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

+ 日本赤十字社 山口県赤十字血液センター からのお知らせ

大学・短大・専修学校生のボランティア団体

山口県学生献血推進協議会～フクラブ～

山口県内の大学・短大・専修学校のボランティアの学生さんたちが、同年代である10代20代の方を中心に、多くの方に献血をしていただけるよう活動しています。

街頭献血

年4回、学生主体での街頭献血キャンペーンを企画し、献血の呼びかけを行います。



役員会

月に1回程度役員会を開催し、街頭献血キャンペーンに向けて、話し合いを行っています。



県外学生との交流

各県代表による学生会議が開催され、県外の学生と交流して、献血活動を充実させています。



フォロー&いいね
お願いします！

X
YamaGakusui



instagram
yamagakusui





献血ができる場所



移動採血車（献血バス）

山口県内各地の事業所やショッピングセンター等を日々巡回しています。



献血バスの配車予定は、山口県赤十字血液センターのホームページをご覧ください。

ブラウザで検索する

二次元コードから検索する

献血バス 山口県



または、山口県赤十字血液センターフリーダイヤル ☎0120-456-122までお問い合わせください。



やまぐち献血ルームFor you

カフェのような空間で、リラックスしながら献血ができます。



受付時間：〈成分献血〉9:00～11:30／13:00～16:00
〈全血献血〉9:00～12:00／13:00～17:00
※定休日：火曜日

所在地：山口県山口市野田172-5

アクセス：〈JR山口線〉山口駅から車で5分
〈防長バス・JRバス〉「日赤前」バス停から徒歩5分



献血に関する動画

献血に関する動画をYouTubeにてご覧ください。

二次元コードから検索する

献血推進プロモーションチャンネル_日本赤十字社



献血に関するお問い合わせ

最寄りの各市町窓口・県健康福祉センター（環境保健所）

山口県健康福祉部薬務課 ☎083-933-3018

山口県赤十字血液センター ☎0120-456-122

～あなたの献血で、ひとりの命が救われます～